

## ノーマライゼーション理念を掲げつづけて

—きらくえん 37 年の実践とこれからめざすもの—

### 1. 当法人の事業—1982 年法人認可

—介護保険制度下で包括的サービスの提供と自立支援をめざして—  
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）5 ヲ所 343 人  
（内 福祉避難所特養 4 ヲ所、地域サポート型特養 4 ヲ所）  
居宅介護支援事業所 7 ヲ所 地域包括支援センター 4 ヲ所  
短期入所生活介護 6 ヲ所 112 人  
通所介護（障害者含む）一般型・認知症型・小規模型・介護予防型・リハビリ特化型 20 単位 555 人  
訪問介護（障害者含む）9 ヲ所 500 世帯  
訪問看護 1 ヲ所 25 世帯  
配食サービス 4 ヲ所 150 世帯  
認知症対応型共同生活介護（グループホーム 2 ヲ所）4 ユニット 36 人  
ケアハウス 2 ヲ所 45 人—内 1 ヲ所特定施設  
生活支援型グループハウス 1 ヲ所 18 室  
サービス付高齢者向け住宅 1 ヲ所 56 戸  
分散型サービス付高齢者向け住宅 4 戸  
小規模多機能型居宅介護 2 ヲ所 50 人  
居宅介護支援事業所 6 ヲ所  
介護予防事業 51 事業  
復興公営住宅への LSA 派遣事業と高齢者自立支援事業、2 市 1,342 世帯の内 630 世帯を支援  
（シルバーハウジング 2 ヲ所 382 世帯・コレクティブハウジング 2 ヲ所 103 世帯ほか  
高齢者特目住宅・車イス対応住宅・一般住宅 等）  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護 1 ヲ所  
「兵庫式 24 時間 L S A 地域見守り事業」 4 ヲ所  
ケアローソン事業（兵庫県第 1 号）1 ヲ所  
地域交流事業 喫茶店・ケーキ店・ギャラリー及びホール等の運営（講演・シンポ・各種コンサー  
ト・交流イベント）・ミニショップ・建物管理等  
約 126 事業 職員数約 850 人

### 2. 法人の理念と方針—組織の価値観の確立—

法人理念はノーマライゼーション—地域のなかで 1 人の生活者として「普通」の暮らしを築く—  
運営方針は「人権を守る」と「民主的運営」

理念と方針はどうして生れたか

### 3. 法人の事業とそのとりくみ—価値観に基づく実践—

(1) 下町のノーマライゼーションをめざして —特養ホーム「喜楽苑」1983 年 4 月開設  
定員 50 人 4 床室中心—

「人権を守る」とりくみの具体化  
人間の尊厳を守る プライバシーの保持 市民的自由・社会参加の尊重

認知症高齢者にもノーマライゼーションを—認知症高齢者の社会化と地域の福祉力の向上  
川柳クラブやふるさと訪問で学んだ高齢者観、夜の居酒屋で地域住民と交流

「民主的運営」の具体化 —地域に根ざす—

役員の役割と職員のチーム労働  
入居者自治会と 3 つの家族会の活動  
ボランティアの支援、地域の社会資源の活用、地域の老人会への加入、保育所・学校との交流  
これまでの主治医の継続—協力病院・医院 22 ヲ所

(2) 自宅で最期まで暮らせるまちに—喜楽苑地域ケアセンター「あんしん 24」2012 年 10 月開設  
在宅福祉サービス 9 事業を集約（地域包括支援センター、ヘルパーステーション、  
短期入所生活介護、地域密着型デイサービス、地域密着型認知症デイサービス、  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護、「兵庫式 24 時間 L S A 地域見守り事業」 等

(3) ハードからも人権を守る —特養ホーム「いくの喜楽苑」 1992 年 9 月開設  
定員 58 人 居住エリアのユニット化・3 分散化と全室準個室化—  
大きな家を建てたい 動物が飼え、土いじりができる生活を  
「近所の人」とのおつき合い、入居者の自立への高まり  
個室は生き生きとした日常生活があつてこそ生きる  
認知症の方々の歌で蘇った伝承の盆踊りと地域の活性化  
(4) グループホーム竹原野のとりくみ  
—2005 年 4 月開設 2 ユニット 18 人  
数奇屋風・囲炉裏のある住まい、癒しの空間効果、和と洋の暮らしを試みる  
地域密着型の語らいの豊かさ

(5) 小規模多機能型居宅介護—たまき喜楽苑 2007 年 3 月開設  
生活圏域の中で通い・泊まり・訪問の包括的サービスを提供

(6) 介護予防型デイサービス「元気・とちはら」を開設—2010 年度～  
統廃合された元幼児センターで地域住民と共に

(7) 阪神・淡路大震災と高齢者  
被災地の希望—「高齢者・障害者地域型仮設住宅（通称ケア付仮設住宅）」  
1995 年 4 月・5 月芦屋市・尼崎市で開設 6 棟 78 人—  
大震災下の特別養護老人ホーム「喜楽苑」  
開設間近の「あしや喜楽苑」の被災と再建をめぐって  
大震災で生まれた性別・年齢・障害種別をこえたケア付仮設の提案と実践  
被災地の希望「いつでもひとりになれるし、いつでも誰かと会える」地域での暮らし

すき間のケアを—南芦屋浜復興公営団地シルバーハウジング等への LSA 派遣事業等の実践  
芦屋市の事例 1998 年 6 月開始 814 世帯対象—

高齢化率 53.2%、単身高齢者世帯率 51% (2014 年 11 月)のまちで 24 時間の生活支援にとりくむ  
19 年間孤立死ゼロを実現

地域包括支援センターやヘルパーステーション、地域諸団体との密な連携の効果

超高齢社会における試金石—一般化の必要性

増加の一途をたどる高齢者の単身・夫婦のみ世帯

〔被災地の全復興公営団地の高齢化率 71.8% 独居高齢世帯率 49.9% (2018 年 7 月)  
独居死 1037 人 (2000 年～2017 年度累計)〕

兵庫式 24 時間 LSA 地域見守り事業～地域サポート特養第 1 号 喜楽苑 (2013 年度)  
いくの・あしや・けま喜楽苑も取得 (2015 年度)

(8) 「福祉は文化」 —特養ホーム「あしや喜楽苑」 1997 年 1 月開設 定員 80 人  
パーティーによる全室準個室化・地域の文化の拠点に—  
地域交流スペースから真・善・美を —地域住民と共に 1 カ月 4 千人が集う—  
ギャラリー、喫茶店、講演会、コンサート等の賑わい  
ボランティアは実数 350 人  
とびっきりの普通の生活・自己実現をめざして

ターミナルケアに学ぶーオールドブラックジョーを歌い続けて  
人生の完成期こそきらめく時をー95歳のピアノコンサート  
協力病院・医院 48カ所  
ケアとは生命と生活を発展させること

(9) 居住系サービスの見直しーケアハウス「エイールあしや」の特定施設化ー2007年4月～

(10)安全・安心・地域との共生をめざしてー「生活支援型グループハウスきらくえん倶楽部大樹町」  
2000年12月開設 17世帯ー

小規模多機能型居宅介護を併設ー 2007年3月開設  
特養ホームサテライトの優位性

(11)ケアローソン事業開始ー2016年12月  
買い物のついでに地域の相談所として

(12)分散型サービス付高齢者向け住宅 ー 2020年4月

(13)全個室・ユニットケアにとりくむ  
ー特養ホーム「けま喜楽苑」2001年4月開設 定員55人  
もう（収容）施設はつくらない、特養ホームを地域のケア付住宅にー

<建物・住空間>

生命力をしぼませない「施設」づくり  
定礎に「つなぐ」と刻む ーこれまでの生活の継続、命をつなぐ  
人と人をつなぐ、地域をつなぐ、世紀をつなぐー  
時間を経た外壁、玄関を2カ所に、被監視感の除去、なじみの空間づくり  
デイサービス一般型とショートステイを一体的に  
デイサービス認知症型とグループホームを一体的に  
調整型ユニットをめざす ー立地・地形の悪条件を逆手にー  
なじみの設備・備品、一人ひとりに合わせた補助具の徹底、低床化へのとりくみ  
手すりを最小限に、サインをなくす、放送をなくす

<ユニットケア18年のとりくみ>

狭義の「介護」ではなく自立生活を支援する生活援助の徹底  
個室・準個室空間・準公共的空間・公共的空間を生かすケアーそして地域へ  
入居は引越し、まず部屋づくりから  
食事・入浴・排泄、移動・移乗のとりくみ  
たっぷりとれる睡眠時間が事故予防に  
ターミナルケアのとりくみーNHK優秀賞『最期までの日々（2006年）』  
協力病院・医院23カ所  
開設1年後、半数の人の介護度が下がる  
クラブ活動・行事・外出ー行為の目的性・正常な対人関係の構築  
自立意欲が顕著、意思表示や要望が明確、自己決定があたりまえに、  
生活のすべてをその人らしくが可能ーADL（日常生活動作）の向上  
自治会・家族会の活発な活動  
地域住民と共に学びたのしむ おきらくやの活動ー大人も子どももいらっしゃい！  
ボランティアの受け入れー実数200人余に

ケアを受ける場から自立支援・生活再編の場への変化、主体と客体の転換  
ー個室・ユニットケアの優位性

(14) 認知症のグループホーム いなの家のとりくみーあたりまえの暮らしをめざして  
ー2001年4月開設、2ユニット18人

数奇屋風・なじみの環境づくり  
取り戻した日常の暮らし、すっかり我が家に  
潤いのある暮らしづくり、1ヵ月で行動障害が消失  
社会性のある暮らし、毎日の外出  
世界でひとつ（？）の自治会活動「自分たちの生活は自分たちで決める」

世界アルツハイマー病協会国際会議で発表  
家族会の賑わいと協力、地域との共生  
ケアを受ける場から自立支援・生活再編の場へ  
ターミナルケア、家族会、地域と共に、グループハウスとの共生とその効果

(15)生活支援ステーション げんき武庫之荘ー2018年1月開設  
武庫東地域包括支援センター  
きらくえん武庫之荘ケアプランセンター

#### 4. 神戸市須磨区における新たな事業展開ー 「KOBE須磨きらくえん」ノーマライゼーションヴィレッジ構想

ノーマライゼーションヴィレッジをめざす7つの「つなぐ」

- ①命をつなぐ  
質の高いケアを提供し安心の暮らしを保障する
- ②暮らしをつなぐ  
入居者・利用者のこれまでの生活スタイルや暮らしを入居後も継続し、その人らしく  
過ごしていただく
- ③人と人、地域をつなぐ  
施設を開放し、入居者・家族・ボランティア・地域住民・関係する多くの人々との  
相互交流と多くの出会いをつくり地域の方々同士も横につないでいく場とする
- ④世代をつなぐ  
子どもや若者、働きざかりの人々、高齢者など多世代が集う地域の拠点に
- ⑤文化・芸術をつなぐ  
地域の文化・芸術の拠点として多彩なとりくみを展開し、質の高い文化・芸術を  
ともに享受する
- ⑥自然と歴史をつなぐ  
計画地に残された林や樹木などの自然を最大限生かすと共に、地域の歴史や伝統文化を  
守り継承することに力をつくす
- ⑦世紀をつなぐ  
平和があってこそ福祉の発展がある。21世紀は全ての人たちの人権が守られ、世界全ての  
国々・地域が平和であれと切望する

(1)第1期事業ー歴史のまちで多世代共生をめざすー特養ホーム KOBE 須磨きらくえん 2012年4月開設  
全個室・ユニットケアの新型特別養護老人ホーム 定員100名

- ・地域交流スペース・ホール・ギャラリー・喫茶店・バーの賑わい
- ・一人ひとりの生活時間をその日に合わせるとりくみ
- ・ノーリフトポリシーの実践
- ・開設1年目に結成された家族会と自治会
- ・家族の訪問 1日に30余人（定員の3割）
- ・賑わう地域交流事業 青空市

(2)第2期事業

- ・医療との連携「おおはらクリニック」誘致 ー2016年9月開設
- ・リハビリ特化型デイサービス げんき須磨 ー2017年2月開設

(3)第3期事業

- ・サービス付き高齢者向け住宅 フィーカ須磨の丘 ー2020年11月開設
- ・地域包括ケア事業ー在宅医療・福祉サービス  
地域の医療機関とのさらなる連携
- ・レストラン・ミニショップ事業、多目的室（森の東屋2カ所）、サンクンガーデン等の活用

(4)第4期事業

- ・事業所内保育所 さくら園すまきた保育所 ー2021年4月開設
- ・訪問看護ー北須磨訪問看護・リハビリセンターとの連携 ー2021年4月開設

(5)三田市民の遺志を生かした山帽子の庭－三田きらくえん地域ケアセンター

2014年4月15日開設

- ・居宅介護支援事業所
- ・小規模デイ

## 5. 認知症ケアのとりくみ

### (1)基本的なとりくみ

抑制（物理的・管理的）の廃止  
正確な医学的診断と専門医との適切な連携、薬剤投与を最小限に  
認知症への理解を深める  
生理的日常生活リズムの確立  
環境整備－なじみの環境、美しい環境  
人間としての尊厳を守るケア－礼儀、一人ひとりの人生や生活歴を大切にするケア  
生活歴を生かす－うるおいのある生活、社会性のある生活  
受容と共感  
瞬間瞬間を大切にする  
おだやかにゆったりと笑顔で情動に働きかける  
触覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚等5感に働きかける  
アクティビティーの充実－  
自然・音楽・園芸・動物・回想法等々  
家族・地域との連携

### (2)認知症ケアのこれから

認知症ケア改革－クリスティーンプライデン氏に学ぶ  
『私は誰になっていくの？』から『私は私になっていく－痴呆とダンスを』へ  
認知症という絶望の淵から再び希望に向かう勇気の物語  
世界アルツハイマー病協会国際会議の意義  
当事者が語る、当事者に学ぶケアを－2004年を日本の認知症ケア元年に

世界でひとつ（？）「いなの家」の自治会活動  
自分たちの生活は自分たちで決める－国際会議で発表  
地域との共生－ノーマライゼーション理念の重要性  
社会的包摂を

## 6. これからの福祉職員の専門性とめざすべき方向

### (1)実践的専門性を磨く

人間観、人間性の重要性  
総合的な力をつける  
人間と生活と社会に関する正確な知識を  
鋭敏で豊かな感性と文化性を磨く  
コミュニケーション能力  
受容と共感、みんな違ってみんな良い  
介護技術－熟練  
研究開発能力  
コスト意識

### (2)地域と共に

施設の開放・情報公開  
地域に住む一員として地域活動に参画  
地域の社会資源の活用－自足性を低くする  
真の地域福祉時代を迎える中で地域との融合を促進

### (3)喜楽苑職員5つの条件とは

人権感覚に優れていること  
科学的な歴史・社会認識の確立  
ヒューマンで優しい  
ソーシャルアクションができる  
チーム労働の中で成長できる  
新たに必要となったコスト意識と経営能力  
専門性のキーワードは人権感覚と総合性

## 7. 正しい高齢者観とノーマライゼーション理念の徹底を

高齢期とは  
高齢者の心理を考える  
結晶性知能と流動性知能  
老いへの差別の克服と可能性への探究

国際高齢者年（1999年）と私たちの責務

－高齢者のための国連5原則と開発上の側面と人道上の側面を考える。  
（1982年高齢化世界会議で提起）－

ノーマライゼーション理念の重要性  
地域から世界へ－福祉のまちづくりこそ防災のまちづくり、そして平和の礎  
重要な高齢者の役割－21世紀を平和と人権の世紀に

## 8. 認知症高齢者のピアノ演奏

以上

< メ モ >